

## 第8回市民協働指針検討委員会 会議録

日 時	平成19年4月19日(木) 18:30~20:30
場 所	202会議室
出席者	委 員 泉谷 清、鎌倉 洲夫、吉田 愛子、瀬川 真弓 久保 純一、小杉 恵津子、富塚 広 恵庭市 企画財政部次長 北林 剛 広報広聴課長 吉田 真俊
<p>1. 第6回委員会議事録確認</p> <p>2. 質疑及び意見交換</p> <p>事務局： 昨年11月より検討を進めてきたが、市民活動推進課で検討している新しい事業の構築との関係からも、検討結果を踏まえて一定の方向性を指針として示してほしい。当然、指針の策定によってこの委員会の終了という事ではなく、指針をより実効性のあるものとしていくための、検討、周知活動等の主体となっただけだと考えている。まず、当初3月を策定期間としていたが、現状での策定までのスケジュールを立てたい。</p> <p>久保委員長： スケジュールは策定がずれるにしても必要と考える。遅くとも6月末くらいには、かたちはどうであれ検討の結果を出すべきだ。</p> <p>鎌倉委員： この委員会を公募したときの策定予定が3月で、それがまだ生きていると考えている。指針の形はどうであれ、遅くとも6月末までにはということで、ある一定の目処をたてるべき。</p> <p>泉谷委員： 市民向けパンフレットを作って配付したが、委員は理解してても、おそらく市民の関心はそう高くないと考えられる。これからどういう形で進めていくのかが大事。指針を出してそれでOKなのかなと思っている。協働について市民と話し合う場、協議する場が必要で、市民共通の認識が出来ていかないと、作ってそれで終わりという事になりかねない。</p> <p>事務局： 当然、指針が出来て終わりとは考えていない。出来上がった指針をテーマにして、講演会、シンポジウムといった市民意識の向上のための手立てを続けていく必要があると考えている。</p> <p>泉谷委員： そうした事の大きなポイントは町内会だと考えている。地域に根付いた、生活に一番近い町内会の意識が変わり動けば協働への理解も進むと考えている。単なる親睦団体から地域の課題をおさえていて、出来る事は自分たちで解決していく団体にどうやって変えるかが難しい。</p> <p>鎌倉委員： 町内会に入っていない人もいるわけだから、市民個々を対象に考えていくのが原点と考える。</p> <p>泉谷委員： 確かにそれが原点と思う。配布したパンフレットで市民の意見を求めているが、さらにシンポジウムなど市民意見を聞く場が必要である。「自助」「公助」「共助」とあるが、どれだけ市民が理解しているか、どれだけ興味を持ってきているか疑問がある。時間をかけて理解を深めていく必要がある。</p>	

- 事務局： 何を手立てに、何をベースに市民理解を深めていくかだが、今回の市民向けパンフレットとするか更に検討の余地があるにしても、策定された指針なのかと考えた場合、ここまで時間をかけてきた事を考えると、指針という形がいいのではないかと考えている。
- 富塚委員： 2月の会議に出された「恵庭市まちづくり基本条例制定に向けて」で、市民の役割、議会の役割、市の役割が書かれているが、こういう枠組みで考えていくのがいいのではないか。市の役割という事を考えるとき、業務に当たっている職員の意見も聞いてみたい。議員にも話を聞いてみたい。そこまで踏み込む必要があるのではないか。
- 事務局： 自治条例では当然議会の役割という事が出てくるが、この協働指針で議会の役割がどうなるのか。果たして協働の相手側になりうるのか。市民、議会、行政の協働の三角形が成り立つのか疑問がある。例えば、行政と議会の協働の関係が成り立つのか。
- 小杉委員： 成り立っていないが、成り立った場合はまちが変わっていくと思う。
- 泉谷委員： 議員はほんとに市民の中に入っているのが。行政の人はほんとに市民の中に入っているのか。町内会の活動の中に入る事で市民の実態がつかめるのではないか。仕事一筋の人は、市民のための仕事といいながら、自分のペースだけで市民を忘れてる。
- 小杉委員： それぞれの人がそれぞれの立場で協働を意識して仕事、活動をしていると考えていると思う。共通した協働の考え方が必要でお互いがそれを気付く必要がある。気付かなければ次のステップには進めない。そのきっかけとしても今回のパンフレットは良く出来ていると思う。市職員が協働をどう考えているのか、理解しているのか聞いてみたい。
- 泉谷委員： 市民活動では往々にして「おかしんでないか」「あんたたちなにしてるの」という活動になってしまう。それは、いっしょに勉強して、活動して、情報を共有して理解していきこうという事に欠けてるのだと思う。議会の人たちとも情報を共有する事が必要で、それが協働のきっかけになる。
- 久保委員長： これから協働を進めていくうえでの問題、しなければならない事は市民向けパンフレットに書かれている。その解決の方法、やり方を、フォーラムなどで意見を聞きながら形にしていくしかないのでは。
- 吉田委員： 市民向けパンフレットを基本にして、これに細かく肉付けしていき、市民に分かりやすく訴えることができればいい。
- 瀬川委員： 市民向けパンフレットにある指針づくりのステップの一つ一つを市民それぞれが考えてもらうようなフォーラムのようなものを開いていき、指針策定のタイムスケジュールが必要。
- 富塚委員： 市民には行政がやってくれるという受身の姿勢があり、行政には市民の意見を聞かなくてもどんどんやればいいのかという意識がある。意識改革が必要で、この指針が意識改革につながるものでなければ、相互理解と共通認識と言ったところで、言葉面で終わってしまう。それぞれへの働きかけが無いと、いい指針にはならない。行動の指針を作る場に、一方の当事者である市の職員が入っていないのか疑問。今からでも入れたほうがいい。
- 瀬川委員： 市民が考えている協働の形、行政が考える協働の形、議会の考える協働の形が、それぞれ一致していなければならない。
- 小杉委員： 市民の立場で考え市民から見た協働の考え方で市民向けパンフレットを作ったが、市民に対してこんな考えでいいかという検証が先ず必要、同様に行政での検証が必要と考える。
- 久保委員長： 一度職員と何か一つのテーマで懇談の場が必要でないか。情報の共有という事が言われるが、市の職員が実際にどう考えているか、どんなアイデアを持っているか聞いてみたい。

瀬川委員： 職員として仕事しているときと、市民として疑問に思っている事はないのかも聞いてみたい。

事務局： どういった職員の話を聞く事となるのか。

小杉委員： パンフレットにも取り上げてが、ゴミ問題が生活に密着しているし協働ということに取っ掛かりやすい。ゴミ対策担当者はどうか。

吉田委員： ゴミ問題や除雪問題でも市民会議での協議を重ね、参加市民は行政に文句やどうして出来ないのと言ったりするのでなく、一緒に何が出来るかを考えるのが目的ということを理解されてはじめて、本音の部分での話し合いが出来た。

事務局： ゴミ問題について担当者の話を聞く事が、どう協働につながっていくかを、お互いに理解しなければならない。たんにゴミ問題を検討する場ではない。

久保委員長：問題を共有する事が必要。そのためのシステムをどう作っていくか。

事務局： 「ゴミ問題から協働を考える」ということで、担当部署に出席を依頼する。

次回会議 5月9日午前